

拾遺

諸別あがり

拾遺と那  
えのり  
えのり

七

和書門				
九	一	七	二	類
三	函	架	冊	
七	九	三	二	

内閣文庫	
和	九一七
函	一七
架	一五

内閣文庫	
番號	和 9172
冊數	6号 (6号)
函號	177 947



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

教部  
文庫  
印

圖書  
文庫

續諸別りり七

一〇三五六號

揚州府志

全龍寺古蹟記

全龍寺の事

我者 揚州府志 全龍寺古蹟記

揚州府志 全龍寺古蹟記

揚州府志 全龍寺古蹟記

揚州府志 全龍寺古蹟記

二月二十六日 全龍寺古蹟記

母なる東より川を渡り三里其間唐  
橋柱乃里より川向日明神を祀る土佐  
日記よりなる橋板ハ向日の南にあり  
ありと云々其地の城址ハのち此の地  
村の東乃備<sup>オホハラ</sup>ありけり此の地ハ  
一と云々後細川<sup>フナタカ</sup>友孝の城たり後友孝ハ  
丹後の父は梅<sup>ウメ</sup>り也明智光秀より  
渡りて秀吉と戦ひて討軍敗れしけ

城ハ一夜築り南北十八間東西廿間  
境ハ甚狭一城の四りに城今も残る  
てありあり城内ハ土塔<sup>ドト</sup>を  
築きしなり外郭<sup>ウチノ</sup>あり古の城ハ  
みせしなり其地ハ後ハを城乃もみ  
猪籠<sup>イノ</sup>村ハ細子村の瑞<sup>ミ</sup>なるあり  
律寺<sup>リツ</sup>なり鎌倉ノ是利基氏ノ寺を  
瑞泉<sup>ミヅノ</sup>と云い後ハを基氏ノ寺

なる一ととりとたよのわに其うを  
守はく内しきかりも信よ同しに傳  
記をく編起る

杭川 夫本集よと砂と橋本のと  
の川なりとつり一税と刻し訓教と海平  
ち村と海田ち村の田を流る川を白  
川なりとあるよりと砂と砂なりと里  
人めけ川をさよよと杭川なりとつりよ

桑村の下はく流川よ流あ也忠度村  
流乃河け川より起(ゆ)れりかりけ道  
の昔の面(面)下り道なれり忠度の流川  
より起るゆととけ川なりと同名三  
所おなまれりあやと小流川と云う名  
所のさ古人の税也ととあらく久い位  
とくはあやと終る税多し能考  
合をく史をさよと

新編

離宮八幡の山崎の所乃あるの事いふ  
 之殿は英廉なり社領千石社人百人  
 各社田を伴ふ毎日三人社おの番と  
 はしむ山崎と栲別の境より山崎乃内也  
 関明神とい栲別の内也離宮八幡と関  
 内社との間より山崎栲別の境あり海と  
 隔るす

関戸 所々の栲別也山崎と所はまきり

あり山崎川の山崎の所も関戸なりも山に  
 又所よりあり山崎村よりありそをあるの山を  
 あり山崎の山をあり山崎の川は名も山崎  
 川をありしり也後山崎院の神教堂の  
 道より二所程ありあり寺より山崎を  
 了人たやとて拜するものありて山崎を  
 ありしり人より山崎を山崎より関より山崎を  
 ありしりあり毎月廿二日ありて其側み

あり深敷宅あり社領五百石餘あり

本枯の森 廣瀬村のもゝあり

榎井小なる町あり昔より宿禰たりしよ

や楠正成系あり足利某氏の寺ふと

して兵庫へ移りし時其子正成と教

訓して故郷より久しき一處なり

待宵小伝後々墓 榎井の所も此方の所

よりありの所なりよあり

神並 大道の所は神並の森あり社を

聖茂春日乃あり社とありあり名はく

梶原 信よありありと云社並くはあり

と信よ云つぐるあり

金龍寺 けを括列持上那ありとあり

二里あり丹波谷とてありありとあり

ありと其先より右より今とい廣く海と

ありと右より海と云村ありけ谷の川と

いの尾川と云今龍寺と安徳村の境内  
 かりおほより岩中を繞りて教所ありて  
 右より左を望み今龍寺のありし所は  
 山下より坂とよほりて二所其間並木  
 乃し様多し一系社のたらしめてもは  
 の心とくくつりて用りては右に大なる  
 云乃心の小石ありもふ白り今龍寺  
 本堂の内は佛厨あり其内金剛のまを

お師匠及二十五の聖像双の廟は観音  
 勢至の像あり皆今龍寺の系也左に  
 八まれ白樺の老樹十二株あり系社の  
 傍勢さらけ盛と回付はまきかり樹  
 びふたはまき下の子れ一ま様と  
 いまの罪りは山との八ま様かへ川と  
 盗ま開くまきりけま下ハ幽谷ま  
 て陰まきりといふも向て湯氣とや





其間より別所村より古多敷の山下乃村  
 中り村の中より終因が古墳田のやうり  
 以て遊スロするり古本キより其かよ石  
 碑ありて井日向古殿より林道春  
 乃碑銘を碑法の法い思川乃社書  
 大和を刻じゆ人字ゆふも終因は  
 地へ住りて古多敷の入りとて又  
 伊勢より古多敷の境より古多敷に

ありぬ山のまにあり上あり二町より  
 乃海道乃海也けさい奇人伊勢丹湯  
 乃創をて今い福家より伊勢の住  
 一處より其名の系甚く一勝シヨク山  
 首嶽山河内のはらも由來あり  
 乃株れ田系はわくの惣シヨク家シヨクふもさ  
 概の城らうりさ概いさあたり伊勢の  
 墓いさなるのがさるたあり居と

新編 武蔵野

上流尾上之の小屋あり其内よる墳  
あり是即伊勢乃墳也墳乃大なり  
七尺許の石碑ありされしより其下に  
大なる龜を石にて包みて附し  
笠石あり水井日向あり石を立  
林乃墓碑銘あり白石にて字かん  
本堂に伊勢の神形彫像あり伊勢の  
後ありしよりあり是古一廻あり

此物あり是よりあり不帰あり  
み宿きんとて水無瀬乃淨廟あり  
より見かせ川の橋の上よる  
そのそむし二月廿二日は既  
りぬきこれより三月廿二日は  
よる後鳥羽院乃ゆりの秋と  
りいんと縁あり由守もたは  
井はるけく佳氣より古奇を

新編 武蔵野

六

しんせきくわておりのるまは境なり  
廿七日昨日とてふ念絶ちたりあはれり  
ゆくゆきうらうらとてゆきやなりぬ今物ふ  
傍をきくふのなる橋の花ききよ開く  
それよりあまの歌ききよよとてふけいも延  
亥年中の尾列君乃ま入千代姫君  
剣立しゆよあまをまのりり本堂  
のふ側カネラよとて堂多しじゆいよ八幡山

ををのふ川かゝて絶系なりそねなり  
栗生好光明寺はゆき廣野をさるる  
小橋よゆきちふふんとせしゆは信傳  
他より結て戸いさるりりあまちり  
わふ其踏谷間をゆき林本其花  
くこの系うゆとて谷中路のたぢよ  
さくはねたあまちりもよよとてん観音  
堂ありそねれのれうらあありさるる

長法三十一

十一

乃三乗基より一乗基目下はゆる由信舎七  
坊あり白谷ありしは三坊より天衣ありて  
源等上人開基なりしなりしと傳言  
る中町修を修と堂あり及じしのも  
ふの側ありぬ白樺甚多し今も日登  
み開きなり小垣村の岩屋の藤かり藤  
よりそまてし中町ありしは三坊坂路  
あり

三法寺の岩屋ありしは中町ありしと傳言  
其二所よりありぬ母波へ越る路の石あり  
此れは母波院より通るなり是三法寺ハ  
長安がありしより別名ありしなりありし京  
よありし大竹乃林ありて廣く林あり  
てちの老ありし其下は結寺院ありし  
ち二坊ありし法ありし属ありし地ありし  
今も法ありし夏ハ蚊ありし古じしありし

其の源年開きて奥乃院とせり其  
後けち丹後師流を改め河原並流し  
て他よりかりて古事なるに属せしむり  
とせりタテの藝多あるに村をこて大石師み  
つり先花のちこくもをさる打石八  
字橋をう開くり堂あり十餘橋あり  
後よ花のちけあるありとせり後  
より律さしむり大石師明神とあり

て大石師の村民乃あり入替体と元  
けち酒はきよき酒の店さき處あり  
多し都のをさしむりけり地あり  
さき事ありつりしむりさき事あり  
出下と田をさるき酒の尾明神とあり  
とぬ元師あるありとありさき事あり  
とありさき事一里ありありとありさき事あり  
とありさき事一里ありありとありさき事あり

多し 帰るより一里とくも踏まを  
されし今日昨日さけは遊覧の  
み 帰るにせしむえは痛きなり上  
はまいしむらりて八重橋の  
た 並ありす大井川の側の  
多し 支禅と云 禅僧も  
て 獨居より予昔年より  
よく びんちんらんらん  
を

今又は信よ踏まを  
乃 橋の皆らりて一橋と  
河 本日既りありて  
隙 川も乃おとそそそ  
寓 舎りゆりぬ

元禄二年三月日 益軒貝原篤信書

長門川

廿二



所のじろゆはる平地あり清見の馬  
 次舟あはれまうした中玉大なる所あり  
 加古川のゆは神吉の所あり城は有る其  
 水一里に志方シカタの所有するゆは城は有る  
 志方シカタあり  
 清見のゆ二里ぐうり小は華のあり  
 市イテミも形は加古川と明石との間より有  
 船路の概へ平らな概あり高し一丈あり

本多中勢殿居城あり今八林原 本郡殿 所廣し  
 八十八所ありと云請の臺物多し由富  
 物成よくそかに塩漬甚多し天府  
 の國より是より丹後但馬因懐依  
 おる者作つて是より中必り要路あり  
 此の地と土は雑く肥壤ヒヤクの地なりと田  
 畠多し本陣あり船路より海をこつ  
 五十所是鎧渡計あり所は甚だあり

徳川

廿六



栗山より西姫路の東一里にあり  
小垣山の姫路より二里書字の東に也  
姫路の北一里餘は坊位とあり薬師あり  
さうさの商人と書指傷位とあり亦之林負  
式部殿の墓ありとされいとあり  
坊位ありは廣山寺とあり是祇園の社  
わりありは社之社人多し社数二百六十  
石附ありと商人とありと書林他

園よりと人多く本村より社人星公彦  
て財を儲けありとありと書姫路より二里の  
小垣山の北に白木村あり  
姫路より西一里半に書字ありとあり  
さうさの坊坊多しとあり七百三十三はく  
書字ありとありと書十八町ありと書石碑を  
立記音あり  
小垣山の姫路より二里半ありとありと書

後志州

八幡宮

七

この里に七村あり小塔あり川あり赤  
ね氏乃城松あり

姫路の西一里に青とて小と松山有

その南に村をまゝと村と云これ黒田

如水乃陣所也青とて山とて古寺あり

八幡の里にまゝと云二里行西にあり海

乃乃水に道あり近一里のり右

手元あり有平徳太子の堂あり塔有

之寺あり堂大なるは粟をり所よされ

いかり家多し一箇商の多く住むる所也

乃の南に太子あり鶴より水にりみら

わく是完粟郡への乃より鶴のあり

麻生とて一里有そのあり川有麻生

川とて是より館移るあり

坂鳩乃あり一里に河をさしはる者一楯保

郡と云いまは楯東楯西よりつり川と



珠法外世

十

新し岩より岩より平條の方ゆり坂  
ゆるたきあてより籠形定栗への家網  
千よりと急垣をおり也

かふ吉川と旅路の間ちるよりあはるれ家  
殿ありともあはる根村も天祚の社  
五ノ号根乃松も大なりあふ也

ちるははる民家三千軒あり富人多し  
あはる海をさりちるははるよりあはる

四里其間へ美賀といふ浦あり人家  
多し其先か網千所あり廣くして  
長し富高地なり不川を中れながら  
網千のあか浦田といふ所を是れ富  
人多しそあ家にならうた方よし  
とて扱あり一方は海を是れ也  
ゆるたきあてよりあはるを八里有る  
より旅路をさりちるははるよりあはる

珠法外世

十

新編 地理

二十

十里有

平遠曰室より始終まで五里  
けらみ七まうもの坂を敷るより

那波と云ふ板越乃を志す是より凡所

と云ふ

播磨の山東の一の谷より西に赤穂乃を  
二里俣ふよりいまで凡ある二十五里  
あり南西に海をさう但馬因幡乃境  
まで十里餘あり二條より因幡乃境  
ゆびく二十八里ありと云ふ中必大なる多

くハ姫路をゆきり有相模殿位藏殿  
森内記殿毛利殿又徳勝丹後殿ハ毎  
度けり付来しより云常れ時ハ人形  
稀なり

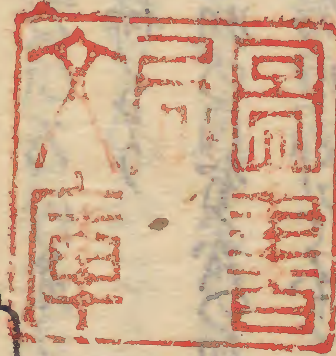
播磨の内賀志の郡を分て賀志加人石上  
傍磨郡を分て傍東傍西に神傍郡  
を分て神東神西に揖保郡を分て  
揖東揖西と云

新編 地理

享 保 六 歲

貝原先生編述目次書林柳枝軒藏版

- |                         |                         |                        |
|-------------------------|-------------------------|------------------------|
| 小學句讀 <small>改点</small>  | 筑前名寄 <small>二</small>   | 大和俗訓 <small>八</small>  |
| 家道訓 <small>六</small>    | 樂訓 <small>三點例 二</small> | 京都外外 <small>一</small>  |
| 大和めり <small>一</small>   | 有馬名所記 <small>一</small>  | 鄙事記 <small>八</small>   |
| 三禮口訣 <small>五</small>   | 木曾路之記 <small>一</small>  | 日光名所記 <small>一</small> |
| 業譜 <small>三</small>     | 濱州外 <small>五</small>    | 吉野小圖 <small>三</small>  |
| 慎思錄 <small>六</small>    | 續和漢名數 <small>三</small>  | 日本釋名 <small>三</small>  |
| 文武訓 <small>六</small>    | 初學訓 <small>五</small>    | 神祇訓 <small>刻</small>   |
| 和學一步 <small>同</small>   | 扶桑紀勝 <small>同</small>   | 日用良方                   |
| 教務書 <small>さいりき</small> | 東海乃の記                   | 同附錄                    |
| 農業全書 <small>十二</small>  | 和爾雅                     | 和漢事始 <small>十三</small> |
| 諺州 <small>一</small>     | 孝經釋義便蒙                  | 續諸州 <small>めり</small>  |



六角通清孝町西八町  
 茨城多九衛門

